

見やすい看板 津別の5カ所に

【津別】町内の道路案内や施設名、動物注意などの看板を現状より見やすくしようと、津別高生と北大公共政策大学院などの学生でつくるサークル「HALC C(ハルク)」が共同で取り組んでいる「デザインワークショップ」は、町内5カ所に設置する看板の原案をまとめた。7月に依頼者の佐藤多一町長に最終報告を行う。

町道51号沿い▽向かい合うシカ「注意!!」

五差路交差点▽木の葉の緑で「ようこそ」

昨春秋、町内の看板を一般町民や同校卒業生も実際に歩いて見て回って交えた議論も実施。ワークショップは計5回を数クから始まり、3月にはえた。

原案報告会が5月26日、同校で行われ、3年生8人とハルクメンバー5人が参加した。

設置場所は①町道51号線沿い②21世紀の森キャンプ場③町内のサクラの名所「双子桜」前④多目的活動施設「さんさん館」前⑤町中心部の五差路の計5カ所。それぞれのデザイン原案が示され、例えば町道に立てる動物注意の看板では、シカを2頭向かい合わせて動物だと一目で分かるようにし、真ん中に「注意!!」の文字を目立つよう配置した。

釧路方面からオホーツク管内への玄関口となる町内中心部の五差路交差点には「ようこそ津別町」看板デザインの原案について説明が行われた。ワークショップの報告会

高校生、北大院生ら デザイン原案まとめる

へ」と書かれた木製看板を作り、周囲を木の葉の緑で彩る工夫も。「SNS(会員制サイト)への投稿を促したい」と、五差路には津別のマスコットキャラクター「まる太くん」の顔はめパネルの設置も計画する。

報告会を終え、同校3年生からは「実際にこういう看板を作ってほしい」「実現を楽しみにしている」などの感想が挙がったほか「津別に住んでいながら、自分は意外とまちのことを知らなかったんだと感じた」などの声もあった。

ハルク代表の松田涼花さん(23)＝北大公共政策大学院公共経営コース2年＝は「大学生と高校生のグループだと『教える』『教えてもらう』という関係になりがちだが、今回に関してはお互いフラットにアイデアを出し合えた」と振り返った上で「描いた構想をしっかりと結果に出す難しさもあったが、楽しみながらやれたと思う」と話していた。

ワークショップの結果を受け、同校とハルクは今後、具体的なデザイン案を練り上げた上で、7月に佐藤町長に報告に行く予定だ。(青山秀行)